

上越ケーブルビジョン
成30年度 第2回番組審議会
議事録

日時：平成31年2月19日（火）14:00～15:00

場所：JCV2F 会議室

出席者 審議委員表記順：会長、副会長、委員（五十音順）

○直原 幹 会長 ○池田弘 副会長 ○上野 迪音 委員

○斉京 貴子 委員 ○佐藤 隆義 委員

（上越ケーブルビジョン）

○放送担当取締役 植木 悦

○放送部 部長 福嶋良章

○放送部 放送課 課長 佐藤康司

○放送部 放送課 課長 沢田真紀

- 1、開会
- 2、挨拶 放送担当取締役 植木
- 3、放送番組審議会進行内容説明 資料にて
- 4、会長、副会長挨拶
- 5、議事

(1) レギュラー番組について

佐藤) これまでも皆さんには多くの番組を視聴いただきご意見をいただいている

今回は、下半期に行った特別放送の番組から4本を用意。

年間50本近く特番がある。

地域の祭りはできるだけ放送しようと取り組んでいる。

中には手が届かないものもあるが、そのコンセプトで予定を進めている

① コシヒカリマラソン

佐藤) 本来100km マラソンも予定されていた。

コシヒカリマラソンの後に100km マラソンを中継する予定だったが

悪天候により中止となり、コシヒカリマラソンのみの中継

ゴールシーンとスタートシーンを主に、インタビューを挟む構成。

地元の人が多く出るマラソン。今回も1600人近くがエントリーした。

地元でも注目度が高いため、ゴールした後はできるだけ地元の人にインタビューを

試みている。

また、数少ない、ラジオ・ネットとの同時配信をする番組。

テレビでの放送が終わった後、会員登録をするとタウン情報でもゴールシーンを見ることができるようにした。多くの人に見ていただけた。

反響も大きいので、来年以降も同様のスタイルで継続を予定している。

ラジオでの同時中継のため、リスナーからのメッセージをテレビの中継内でも紹介した。

②妙高 幼年野球大会

佐藤) 第四回 中学生の硬式野球大会

中学生の硬式野球の収録は初めての取り組み

反響を含めてのトライだった。 1台のカメラでの収録

少し時間をかけて編集し、しっかりテロップを入れて、出場された選手の思い出になればと制作

来年度はバスケなど、より多くの子供たちの活躍の様子を紹介し、応援したい

③レルヒ祭

佐藤) 毎年中継しているイベント。

雪が心配されたがスキー場も無事にオープンし、当日は好天に恵まれた。

去年は風が強くリリースランタンは上げられなかったが、今年は

150個ほどが上がり、番組でも幻想的な雰囲気を届けることが出来た。

会場へのアクセスなどにより、現地へ足を運ぶことができない人たちにも会場の様子を届けることができる。

上越市の冬の一大イベントなので継続して中継していきたい

ニュースを含め、関連の話題を取材し中継中にVTRを挟んで構成。

今回は赤倉などのスキー客を意識し、会場では英語でのアナウンスもされていた。

JCVでも、外国人観光客を意識した番組、サイトの構築を準備している

④もうすぐ一年生

佐藤) 25年以上続く番組。今年度も、73園 1700人の園児に登場いただく。

収録は12月4日に開始 2月21日まで続く。現在放送中

構成も昔からほとんど変わっていない

毎年再放送の問い合わせもいただき、園児本人を含め、ご家族の思い出となる番組と自負している。

<意見・要望>

上野委員) 幼年野球は映像では動きがあるように感じたが本当に1カメ?

佐藤) カメラマンの技量にもよるが、実際、高校野球も1カメで取り組んでいる。

野球収録には、カメラが6台以上使われるのが一般的だが、CATVでは多くても3台まで。

選手の名前がテロップできちんと表示されるのは、CATV局ならではののではないかと思う。

上野委員) 撮られる側としてはとてもうれしいコンテンツだと思う。

佐藤) 高校生は甲子園を筆頭に、どうしても野球が一番になる。

サッカーなど、順次増やしていくということだが、部活動も多いので是非取り上げてほしい。

福嶋) 体育協会などとも相談しながら、できるだけ多くの分野を取り上げようと思う。

池田副会長) コシヒカリマラソンは、エイドを支えている人たちもたくさんいる。

多くの人たちの活躍も紹介してもらえたら。中継車は使用しない?

佐藤) 100kmマラソンも中継する予定だったので、機材等の変更が出来なかった。

池田副会長) 多くの方がボランティアに関わるなどしているので、出来ればその部分も見せてあげられたら

上野委員) ゴールまでの途中は何が映っている?

佐藤) 別のスタートシーンやインタビューなど。

植木) テレビ、FMとの同時中継なので、沿道の方にもFMを聞きながら今どのような状況なのかを伝えることが出来る

福嶋) マンパワーの関係もあるが、祭りの主人公だけでなく、支えている地域の人たちの様子をきちんとお伝えする様、努力する。

上野委員) レルヒ祭は行ったことが無いが、今日番組を見て行きたくなった。

直原会長) 長年会場には行っていなかったが、今はそんな風にやっているんだと番組を見て分かったとの声も多く聞く。

上野委員) インバウンドを意識といえば、赤倉など多くの外国人が暮らす地域はニュース的な扱いではなく、継続的に定点観測も面白いかも。続報や新しい店の紹介なども。

佐藤) 外国人観光客が増えすぎて、モラルの問題も発生しているとの妙高市長の意見もあった。

そのような見えずらい部分も、ニュースとして発信していきたい。

池田副会長) 妙高に関しては7割がオーストラリア人。

赤倉から池の平に派生している。スキー場の入り込み例年よりも

良かったようだ。街中にもインバウンドのお客さんが来ている。
そのような様子も取り上げてもらい地域の盛り上げにつなげていけたら
福嶋) 日頃取材をする中での映像素材を、二次利用して観光につなげる
取り組みを計画している。
地元企業などと連携し、リアルなツアーを企画するなど、観光分野でも
地元へ貢献出来たらと考える。

池田副会長) 街中を歩く外国人の姿は、店に入ってしまうと分からない。
実際に街中を歩いている様子などを映像で伝えることで、
地域の人たちの理解にもつながるのでは。

福嶋) 多言語化も必須と考えている。実際、飲食店では、英語のメニューを
作成する動きも出ている。
特番の計画一覧の中でも、テレビ、FM、ネット 他局 と目標を
設置しているが、著作権を含めネットでの権利の処理関係が明確に
なっていない部分もあり、音楽イベントなどは処理が出来ない状況。
子供関係も安全面でネット上への公開は厳しいが、会員限定での
閉ざされたところでの限定公開する事も今後、視野にいれながら進める。
タウン情報では、既にプレミアム会員サービスとして見逃し視聴も設け、
著作権にかかわらない部分はすべて出している。

<今後の番組に関する要望>

池田副会長) 録画の準備もあるので、楽しみにされている番組は事前告知も大切。
地元密着型がウリ。

佐藤委員) 定住しているという意味では、海外からの実習生も含まれる。
こんな思いで上越で仕事をしているなどの取り上げ方も
ありかと思う。

上野委員) 最近は海外からの定住者が本当に多いと感じる。一方で、
マナーの問題もある。たとえば、高田の雁木は自転車で走っては
いけないなど、地元の人にとってはニュースで得ている情報も、
海外の人には知らされていない。両者にとってまちの今の情報は
必要。事業所と移住者、地元とのコミュニケーションがないまま
今起こっている状況をメディアで取り上げては？
地元ならではの表現が求められるが、映像の力は大きい。

齋京委員) もうすぐ一年生を見たときに、二人ずつ並んでしゃべらせるのが
ちょっとかわいそうな感じもある

うまく喋れない子に隣の子が囁いているのをそのまま流している姿見て、親御さんはどう思っているのかと思いつつながら番組を見ていた。

25年間変わらない構成を少し変えてみるのもひとつ。

写真や園生活の思い出などの映像（保育士や保護者が撮影したもの）も入れて、思い出として保存出来る番組にしてみてもは？

全ての子に喋らせる必要はないように思う。

直原会長) 確かに、痛々しい場面もある。

池田副会長) うちの孫も出たが、話題は二つ。園で楽しかったこと、小学校に行ったら頑張りたいこと。 なんだか、やらされ感のある内容に感じる。

福島) 時代の流れで、子どもたちを取り巻く環境や、情報の発信モラルにも変化が出ている現状下、いただいた意見を参考に出来る範囲で改良していきたい。

<全体を通じた意見>

上野委員) 再放送回数を減らす方向の意図は？

福島) 必要以上の再放送は、個々の生活シーンの中で、同じような番組がいつも流れていると感じてしまう要因。

斎京委員) 私も、見る時間は一緒なのでいつも同じ番組になってしまう

福島) デイリーの番組は、視聴習慣に合わせて同じ時間帯に放送。

収録物番組は、数年前から放送時間をばらすなどし、色々な方に接触してもらう工夫をしている。ザッピングの時にひっかかるなどが一番良い例。的を絞って視聴される方などは、深夜に放送しても問い合わせが多い。例として高校野球の番組などがある。

池田副会長) 双方向では可能？

福島) 例えばハイブリッドキャストの技術を使うと可能。しかしテレビ端末の普及が進んでいない為、注視している所。

その他、テレビとインターネットの融合が進む事も期待している。

6、閉会